



co-op vision™



コープこうべ コミュニケーション レポート

2024

2023年度報告



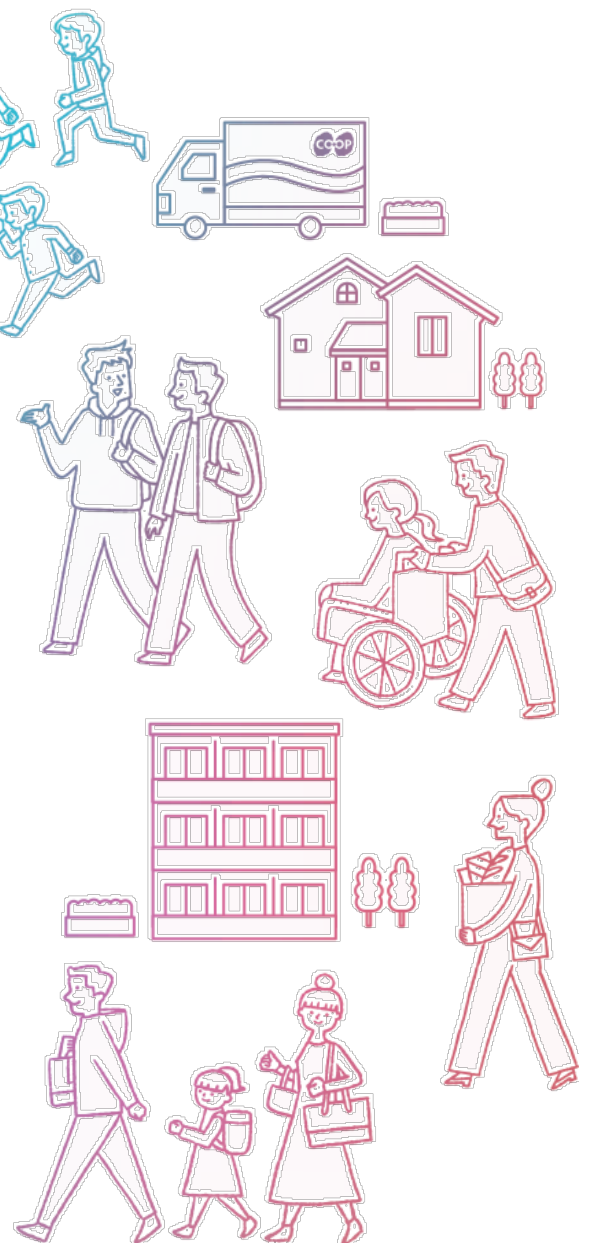
コープこうべ
キャラクター
コッピー

INDEX

ターゲット2030	2
ターゲット2030 × SDGs	4
オリジナル商品のロゴマークが新しくなりました	5
3つの柱の実現に向けた主な取り組み	
1 暮らしの安心づくり	6
2 地域のつながりづくり	10
3 環境や社会への貢献	14
はかるたいせつプロジェクト	19
持続可能な経営基盤の確立に向けた構造改革	
宅配事業の基盤整備	20
店舗事業の構造改革	21
8つの地区について	22

コミュニケーションレポートとは

組合員や地域の皆さまとのコミュニケーションが深まることを願い、作成したレポートです。コープこうべの取り組みを「3つの柱」やSDGs(持続可能な開発目標)を基調に編集しています。



ターゲット
2030

コープのあるまち 協同のある暮らし

誰もが地域で安心して暮らせるように、未来の子どもたちが笑顔であふれるように

ありたい未来
(まち 暮らし)

2030年に私たちは、どのように暮らしていたいか。
創立100周年を迎えた2021年に組合員、役員・職員の知恵と想いを寄せ合って策定した「ビジョン」。

つながり

人と人がやさしさで
つながり、助け合える

健康

健康でいきいきとした
毎を送れる

環境

自然環境と
共に生きる

あんしん

みんなが笑顔で、
安心できる

3つの柱

「ありたい未来(まち 暮らし)」に
向かうコープこうべの役割

2023年、ありたい未来の実現に向かうための
道しるべとなる「中期経営計画」をスタート。
この中で、コープこうべの役割として
「3つの柱」を掲げ、取り組んでいます。

1

お買い物を通じた
暮らしの
安心づくりを
すすめます

→P06～09

2

いきいきとした
暮らし、地域の
つながりづくりを
すすめます

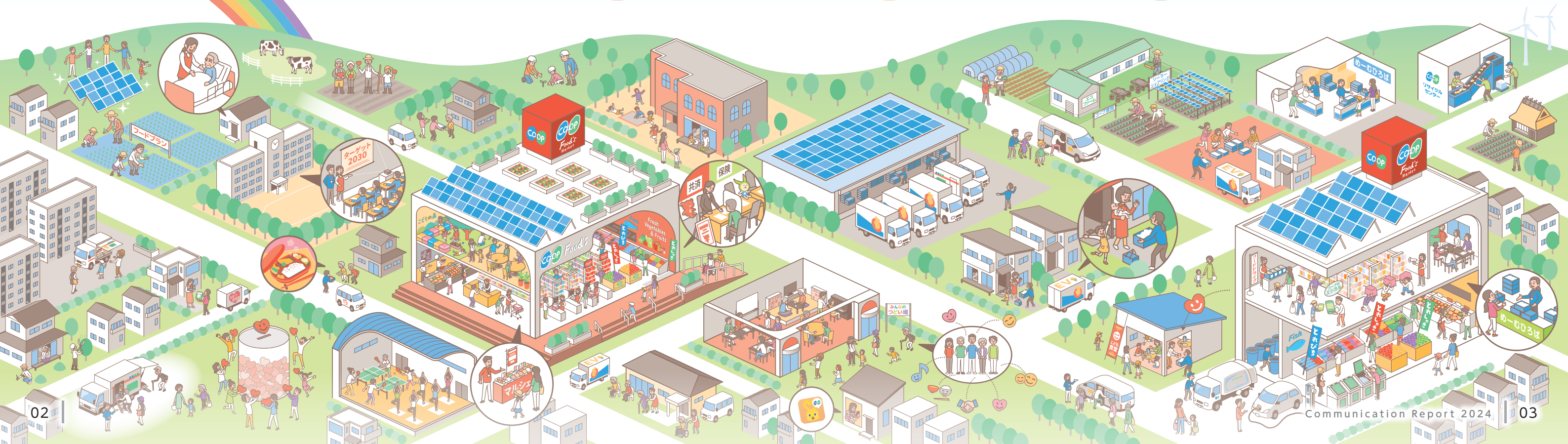
→P10～13

3

環境や社会の
ためになる活動・
事業モデルを
促進します

→P14～18

持続可能な
経営基盤の確立に
向け、構造改革を
すすめます



ターゲット 2030 × SDGs



「生協の父」とも呼ばれる賀川豊彦の指導のもと、
コープこうべの前身となる2つの購買組合
（「神戸購買組合」「灘購買組合」）が1921年に誕生。
「愛と協同」の精神を原点に、組合員が心と力を
寄せ合い、くらしの安心をつむいできました。
創立100周年の2021年に次の100年を見据えた
2030年ビジョン「ターゲット2030」を策定しました。
「誰一人取り残さない」社会の実現を掲げる
SDGsの考え方に共鳴しつつ、2030年のありたい未来の
実現に向け、取り組みをすすめます。



SDGs (持続可能な開発目標)とは…

2015年9月、ニューヨーク国連本部において、「国連持続可能な開発サミット」が開催され、150を超える加盟国首脳の参加のもと、その成果文書として、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。そこに盛り込まれているのが、“誰一人取り残さない”社会の実現に向けた、世界を変えるための17の目標「SDGs(エスディー・ジーズ)」。

途上国も先進国も含めた世界中の一人ひとりに関わる取り組みで、2016年1月に発効されました。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



ターゲット2030 4つのテーマ	2030年のありたいまち、くらし ／みんなが(で)できること	対応する主なSDGs	共通する SDGs
	人と人がやさしさで つながり、助け合える	貧困 1 貧困をなくそう 産業・技術 9 産業と技術革新の基盤をつくろう まちづくり 11 住み続けられるまちづくりを 生産・消費 12 つくる責任 つかう責任	
	健康でいきいきとした 毎日を送れる	飢餓 2 飢餓をゼロに 健康と福祉 3 すべての人に健康と福祉を まちづくり 11 住み続けられるまちづくりを 生産・消費 12 つくる責任 つかう責任	パートナースhip 17 パートナースhipで目標を達成しよう
	自然環境と 共に生きる	水とトイレ 6 安全な水とトイレを世界中に エネルギー 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 生産・消費 12 つくる責任 つかう責任 気候変動 13 気候変動に具体的な対策を 海の豊かさ 14 海の豊かさを守ろう 陸の豊かさ 15 陸の豊かさも守ろう	
	みんなが笑顔で、 安心できる	教育 4 質の高い教育をみんなに 性平等 5 ジェンダー平等を実現しよう 成長・雇用 8 働きがいも経済成長も 人権・平等 10 人や国の不平等をなくそう 平和 16 平和と公正をすべての人に	

コープこうべオリジナル商品の ロゴマークが新しくなりました

2024年4月、ブランド名とロゴマークをリニューアルしました。

商品パッケージのデザインも順次、変更しています。組合員の「ロゴマークの違いがわからない」「ブランドマークが多過ぎる」などの声を受け、コープこうべのオリジナルブランドは「コープス」から「コープこうべ商品」に。「フードプラン」「コープの産直」などのサブブランドを整理しました。



みんなの意見をもとに
より伝わるブランド名とロゴマークに



「KOBE」の文字を入れ、コープこうべオリジナル商品だと分かるデザインに。「みんなの想いをつなげて」商品づくりをしていることを表現。ブランド名も「コープこうべ商品」に変わりました。



「フードプラン」のマークは「コープこうべ商品」のロゴマークと一体化したデザインに。標語には、産地と共に持続可能な食べものづくりに取り組む意味を込めています。

「コープこうべ商品」のロゴマークは、2万2000票を超える組合員の投票で決定

このマークは
どうなるの？



マークの使用は終了し、
商品は「コープこうべ商品」
として継続します。



コープ商品に限らず
幅広く使用していきます。



2つの「コープ商品」の力を合わせて

「コープこうべ商品」と、全国の生協の組合員の声をもとに開発している「日本生協連コープ商品」のそれぞれの強みを生かし、組合員の力を合わせて、くらしに貢献していきます。



コープこうべ商品



日本生協連コープ商品

コープこうべが大切にしたい5つのこと

組合員と生産者がつながって、想いをかたちにし、育てていく。みんなが安心し、笑顔になれる。これがコープ商品です。

組合員の声に
寄り添って

安全と安心を
大切に

確かな品質と
利用しやすい
価格で

持続可能な
社会やくらしの
ために

生産者・
組合員・職員が
つながり、
みんなで育てる

3つの柱 1 お買い物を通じたくらしの安心づくりをすすめます

「週一宅配」を軸に、店舗やその他のサービスを組み合わせることでお買物を支援し、安心して暮らすことができる「まち 暮らし」



宅配を起点とした買い物サービスに

全ての地域・世代で利用しやすい宅配を起点とした買い物サービスの実現をめざしています。これまで店舗を拠点としていた無料買物送迎車「買いもん行こカー」の運行拠点を協同購入センターに移管(12店舗8台)。

弁当やおかずのセットを届ける夕食サポート「まいくる」も協同購入センターを拠点としており、「週一宅配」を中心にコープこうべの買い物サービスを組み合わせご利用いただけるようしくみづくりをすすめています。



「買いもん行こカー」の拠点にもなっている協同購入センター西神戸

加入や利用のしやすい宅配デジタル化をすすめています

「宅配をすぐに始めたい」「商品のことをもっと知りたい」などの声に応え、コープこうべネット・アプリをリニューアルしました。

新たなWeb加入システムでは、対面することなく、スマホやネットから宅配加入手続きを行うことが可能になりました。

また、『めーむ』掲載時に自動で注文できる新機能「のったら自動注文」により、買い忘れが減り、利用しやすくなりました。



リニューアルしたコープこうべアプリで注文

買い物支援ボランティアが広がっています

2016年から始まった買い物支援ボランティア。「買いもん行こカー」と連携した活動が増えています。コープ山本やコープデイズ神戸西、コープデイズ豊岡で「買いもん行こカー」の到着に合わせて、組合員の買い物のお手伝いをする組合員同士の助け合いの輪が広がっています。



買いもん行こカーが到着(コープ山本)



買い物を手伝うボランティアの皆さん(コープデイズ神戸西)

地域の状況に合わせて「めーむひろば」を広げています

コープミニ中津の跡地に開設した加古川コープのつどい場「かっこ」、旧コープ東加古川の近隣に開設した東加古川コープのつどい場「虹」では、宅配商品をセルフで受け取る方式の「めーむひろば」を実施しています。店舗が営業終了した後も宅配商品の供給を通じて買い物支援の取り組みをすすめています。



セルフ受け取り方式のめーむひろばで商品を受け取る組合員(つどい場「かっこ」(上)、つどい場「虹」(下))

高齢者の見守りに夕食サポートの活用を開始しました

11月、神河町社会福祉協議会と「神河町における買物困難者等への支援に関する協定」を締結。これを機に、同会が実施している高齢者の見守りを兼ねたお弁当配達サービスで、夕食サポート「まいくる」の弁当を利用する試験運用を開始しました。地域ぐるみで、くらしや買い物に困っている方への支援を広げています。



神河町社会福祉協議会 秋山紀史会長(左) 第7地区 柳田由美子理事(右)

地域団体と協働で「見守り宅配」に取り組んでいます

5月に新温泉町社会福祉協議会と「新温泉町における買物困難者等への支援に関する協定」を締結。協定をもとに、8月から地域の福祉作業所の利用者がコープこうべの宅配商品のお届けを始めました。

障がいのある方の社会参加・活躍を応援するとともに宅配を通じて地域の買い物支援、高齢者の見守りにつなげています。



宅配商品を届ける福祉作業所の利用者

地域の福祉車両を活用した買い物送迎サービスの実験をすすめています

コープデイズ豊岡では、高齢化率の高い地域の買い物困難者を対象に、買い物支援に関する協定を結ぶ豊岡市社会福祉協議会と協働で、空き時間の福祉車両を活用した買い物送迎の試験運行を開始しました。買い物に対する不安を取り除いていこう、地域団体との連携を広げていきます。



送迎車両から店内に向かう組合員(コープデイズ豊岡)

行政と連携し子育て支援に取り組んでいます

行政が行う子育て支援の取り組みに賛同し、新たに宝塚市、たつの市に出産祝品の提供を開始しました。赤ちゃんの誕生をお祝いするとともに、子育てにおける孤立や孤独を防ぐため、お出かけを意識したお祝いの品を提供。健康やかな成長を願い、行政と一緒に取り組んでいます。



祝い品を受け取る
山崎晴恵 宝塚市長(右端)



祝い品を受け取る山本実 たつの市長(左から2番目)

食卓をイメージしやすい 売り場づくりに取り組んでいます

旬や季節が伝わり、食卓のメニューがイメージできる売り場づくりや品ぞろえの見直しに取り組んでいます。先行店のコープ西宮東での実践効果を確認し、この取り組みをコープ神吉でも始めました。より買いやすく、食卓をイメージしやすい提案型の売り場づくりを広げています。



旬や季節が伝わる農産売り場

職員が推す!「コープ商品総選挙」 「CMコンテスト」を開催しました

コープ商品を通じたコミュニケーションを図ろうと、日本生協連が実施した「コープ商品職員総選挙」に全国の生協職員と共に参加しました。また組合員、職員にコープ商品の魅力をより深く伝えていくことを目的に、コープこうべの職員自身が推すコープ商品を動画やポスターで紹介する「コープ商品CMコンテスト」を開催。これらは、『めーむ』や店舗情報誌Web版などの媒体で活用していきます。



職員が「推し」のコープ商品を描いたポスター

コープ商品の学習を すすめています

コープ商品について学ぶ「ラブコープフェスタ」を開催しました。住吉事務所や地区本部、店舗など11会場で約320人の組合員・職員が参加(オンラインを含む)。

六甲アイランド食品工場の稼働終了が決まり、日本生協連との共同開発商品として引き継がれた納豆やこんにゃく、冷し中華などの製造委託先から講師を招き、交流会を開催。商品のこだわりや開発時の苦労話など、意見交換や試食を通じて商品の特長を学びました。



コープ商品を試食する組合員

コープ立花が リニューアルオープンしました

建て替えのため休業していたコープ立花が11月、3年ぶりにリニューアルオープンしました。地元野菜のコーナーを設置し地産地消を推進。離乳食、幼児食の品ぞろえも増やし、子育て応援の売り場も拡充しました。さまざまな世代が利用しやすく、親しみやすい店舗をめざしています。



組合員を迎える職員と地域コープ委員の皆さん

「コープ商品」で 組合員のくらしを応援しました

物価上昇が続く中、全国の生協と共に宅配や店舗でコープ商品を特別価格で提供する「くらし応援全国キャンペーン」を実施しました。

また、より多くの方にコープ商品を利用いただくために特別価格で提供する「コープ商品びっくり価格」も実施。昨年を超えるご利用をいただきました。



コープ商品をお買い得価格で提供

食物アレルギーに関する学習会を 開催しました

第2地区の店舗では、食物アレルギー当事者の会や支援団体の「LFA Japan」と共に、食物アレルギーに配慮した商品を見つけやすくなるよう、売り場を工夫しています。

また、食物アレルギー当事者同士の交流会や、地域の方を対象に、食物アレルギーについての理解を深める学習会を開催。メーカーの方々にも協力していただき、誰もが安心して食事を楽しめるよう取り組みをすすめています。



食物アレルギーについて話す「LFA Japan」大森真友子代表

保障を通じたくらしの 安心づくりをすすめています

コープこうべの子会社(株)コープエイシスと連携し、保障の提案を通じたくらしの安心づくりに取り組んでいます。

コープ共済と団体保険を組み合わせた「くらしの総合保障」のセットプランを提案しています。また組合員の健康づくりのサポートとして、推定野菜摂取量が測定できる「ベジチェック®」イベントなどを店舗の共済相談コーナーで開催。のべ1万5000人を超える方に参加いただきました。



野菜の摂取量を測定する「ベジチェック®」ブース

3つの柱 2 いきいきとした暮らし、地域のつながりづくりをすすめます

地域課題の解決に向けて、地域でのつながりや協働が広がり、地域の団体・個人がそれぞれの力を発揮し、いきいきと活躍できる「まち 暮らし」



地域との対話の出発点「地域つながるミーティング」をすすめています

2022年2月からスタートした「地域つながるミーティング」は、総代や地域コープ委員、サークル活動を行う組合員だけでなく、行政・社会福祉協議会・NPOなどの団体、地域で活動する個人・グループが参加し、対話を通じて人や組織がつながる場です。2023年度は、のべ3484人が参加しました。

地域の課題について話し合い、各々の強みを生かし、課題解決につなげています。より良い地域づくりをめざし、さまざまな活動が生まれるきっかけとなっています。



地域の団体や個人が地域の課題や活動について話し、交流を深めています

地域団体と共に健康イベントを実施しています

行政や地域の団体・企業と手を組み、健康づくりのイベントを開催しています。コープ茨木白川では、店舗に併設するついで場で定期的に健康づくりをサポート。自立した暮らしを望む声を受け、栄養士・保健師による健康相談やカフェを行うなど、生活習慣を改善する「食と健康」の取り組みをすすめています。



健康相談を行うカフェコーナー(コープ茨木白川)

行政と包括連携協定を結びました

2024年2月に豊能町、同年3月に川西市と包括連携協定を結びました。行政と結ぶ包括連携協定は、8市2町となりました。

くらしの課題は地域ごとに異なるため、行政と包括的な連携を図り、これからもくらしを応援し、地域の活性化、持続可能な社会の実現をめざし、地域とのつながりを強めます。



上浦登 豊能町長(右)、大阪北地区 西田紀子理事(左)

越田謙治郎 川西市長(左)、第1地区 本田千絵子理事(右)

うみかぜ音楽祭を開催しました

10月、兵庫県立舞子公園特設会場で「うみかぜ音楽祭2023×健チャレMEETS」を開催しました。テーマは「スポーツと健康」。コーラスやダンスパフォーマンスの発表に加え、医療生協による健康チェックや兵庫県漁業協同組合連合会の「ひょうご地魚推進プロジェクト(とれびち)」など22ブースが来店。潮風を感じ音楽が流れる中、約2700人の方でにぎわいました。



明石海峡を背にパフォーマンスを披露する参加者

コープこうべアプリで組合員同士の交流が広がりました

コープこうべアプリの掲示板機能「ルーム」の活用が店舗や地区本部に広がり、「ルーム」の数は31個になりました。組合員からのコメントや「いいね」によって世代や地域を超えた交流が活発になっています。



組合員同士がコミュニケーションできるアプリの機能「ルーム」

地域の野菜や果物の普及に協力しています

コープ園田では、販路がなくなった地元のいちじく農園に協力し、2021年から供給を開始。地域の方が生産した「顔が見える商品」で、とてもおいしいと人気商品になっています。



また尼崎市内の店舗では、同市産の野菜「あまやさい」のコーナーを設置。一時は消滅の危機にあった伝統野菜「田能の里芋」や里芋を使ったコロッケも供給し、好評でした。



地元の野菜を供給する売り場(コープ園田)

気軽に参加できる募金のしくみづくりをすすめています

宅配をご利用の方は、毎年2月に実施する「め〜むde募金」や「商品購入を通しての募金」でいつでも気軽に募金に参加できるしくみづくりをすすめています。商品注文書に品番と数量を記入すれば、コピーポイントを使用して募金ができます。「ポイント募金」には、1万7900件、ポイント1155万円分の善意が寄せられました。これからもお買い物とあわせて気軽に参加できる取り組みを増やしていきます。



ポイント募金についてお知らせする宅配チラシ

「ふれあいひろば」を開設しています

2025年3月までにコープカルチャー事業を終了することになり、閉鎖となった事業所では跡地を貸室として使用できるように新たな学びや活動交流の拠点「ふれあいひろば(コレル)」を開設。コレル相生・大久保・塚口・姫路田寺・桜塚・めふの6つの拠点でスタート。これまでのコープカルチャー講座の一部は、自主運営で活動を開始し、学び合い・教え合い活動の継承や新たなコミュニティの場として生まれ変わっています。



貸室利用や活動について案内する様子

若者とのつながりが広がりました

若者応援ポータルサイト「Konoyubi.(コノユビ)」では、若者の地域での活動を紹介しています。また、コープこうべの「虹っ子平和スタディツアー」に参加した中学生・高校生有志が「Konoyubi.広報隊」を結成。コープこうべの活動をこのサイトで発信しています。

また職員が高校で出前講座を開催したり、地区本部主催イベントに高校生の活動グループが出展するなど、さまざまな形でつながりが広がりました。



「野外音楽FESTIVAL IN上郡」で取材をする広報隊メンバー

子ども食堂の活動が広がりました

コロナ禍で休止またはお弁当のお渡しをしていた子ども食堂やコミュニティ食堂の活動が再開しています。

新たな子ども食堂も立ち上がるなど、子どもの居場所づくりの取り組みが前進しました。コープこうべ全体で42の子ども(コミュニティ)食堂がコープサークルに登録し、地域で活動しています。



店内のつどい場で開催する子ども食堂(コープ西宮南)

新たな「つどい場」づくりに取り組みました

誰もが気軽に集まり、つながり、いきいきとした地域をめざすコープの拠点「つどい場」は22カ所になりました。コープ甲東園の隣にはつどい場「CO・KO」。コープミニ中津の跡地にはつどい場「かっこ」。コープミニ月が丘の店内には、つどい場「つきのわ」を設置。人々が交流し、誰もが憩える場にしていきたいです。



コープ甲東園の隣にオープンしたつどい場「CO・KO」

多世代が交流する場「スマホ教室」を開催しました

各地区とつながりのある学生たちが、地域の高齢者を対象にスマホの操作を教える講座を開催しています。「スマホの使い方が分からない」「Zoomって何?」という声を受け、若者が地域の方と気軽に交流しながら、使い方を分かりやすく伝えています。これからも多世代が交流する場づくりに取り組んでいます。



高齢者らにスマホの操作を教える高校生

行政・地域団体と共に、居住支援の取り組みをすすめました

尼崎市営住宅を活用した居住支援等のネットワーク「REHUL(リーフル)」が広がっています。第1地区の呼びかけで19の生活支援団体がネットワークをつくり、シングルマザーや留学生などへの住まいの提供に協力しています。

またコープこうべの旧女子寮を住まいの確保が困難な女性向けの共同住宅「六甲ウィメンズハウス」に転換するプロジェクトに協力。第3地区では運営団体と共に入居開始に向けた準備をすすめています。



旧女子寮をリフォームした部屋の様子(左)、「REHUL」で活用される尼崎市営住宅(右)

「コープくらしの助け合いの会」は40周年を迎えました

1983年、「地域に相互扶助の輪を」という趣旨で始まった有償の家事支援活動「コープくらしの助け合いの会」は40周年を迎えました。

「40周年記念全体交流会」には、約170人が参加。これまでの活動を振り返り、今後の活動について心を合わせました。各地区では、40周年企画としてコープサークルと協力してカフェや学習会などを開催。会員の皆さんと共に「知ってもらおう つなげよう ひろげよう」のチャレンジを続けていきます。



庭の掃除をする「コープくらしの助け合いの会」活動会員

40周年の会員メッセージ▶

「たすけタッチ」でのつながりが広がっています

ちょっとした助けが欲しい人と助けたい人をスマホのアプリでつなぐ取り組み「たすけタッチ」。これまでにのべ約3100回、ゴミ出しなどを住民同士で助け合ってきました。神戸市垂水区乙木小学校区ですすめてきたこの取り組みは、東灘区渦森台でも運用を始めています。

つながりづくりをすすめ、助け合える地域づくりをめざしていきます。



ご近所の方のごみ出しを手伝う組合員

3つの柱 3 環境や社会のためになる活動・事業モデルを促進します

SDGsの考え方を大切に、これまですすめてきた環境活動や社会貢献を組合員、地域と共に更に発展させ、ますます参加の輪が広がる「まち 暮らし」

関連する主なSDGsのゴール					
成長・雇用	人権・平等	生産・消費	海の豊かさ	陸の豊かさ	平和
8 働きがいも経済成長も	10 人や国の不平等をなくそう	12 つくる責任、つかう責任	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさを守ろう	16 平和と公正をすべての人に

令和6年能登半島地震の被災地支援に取り組んでいます

1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」では、多くの方が被害に遭われ、家屋や建物の倒壊などは広範囲に及びました。これを受け、店舗では1月6日から募金箱を設置。宅配では1月9日からチラシを配布し募金の協力を呼びかけました。ハート基金(コープこうべ災害緊急支援基金)からは5つの団体に400万円を拠出し、ボランティアセンターの運営や活動に活用されています。また1月14日からは、全国の生協の仲間と共に40人を超える職員が被災地の生協「コープいしかわ」で宅配センター業務を中心とした支援を行いました。



電車で「コープいしかわ」の応援に向かう職員



組合員と共に生徒を応援しています

2024年3月に、奨学金制度(2021年度にコープこうべの事業としてスタート)79人が高等学校などを卒業し、



エコファームでの交流会

奨学金「てとて」の給付終了を迎えました。卒業した奨学生は大学・専門学校への進学や就職と、新たな道に歩みをすすめています。

若者の未来を共に支え、応援する組合員の参画の輪が広がり、年間で約580万円の善意が集まりました。



9月集中募金を呼びかける『めーむ』紙面

平和の尊さを伝える活動をすすめました

次世代を担う子どもたちが平和について学び考えることを目的に、7月に「虹っ子平和スタディツアーin福島」、8月に「長崎平和のカンパ寄贈の旅」、2024年3月に「広島平和サイクリングの旅」を実施。のべ18人の中学生・高校生が参加しました。

参加者の有志が、活動を通じて学んだことや教訓などを報告書にまとめました。平和の尊さを考える機会になりました。



原爆ドームの前で、平和ガイドから当時の状況を聞く参加者

障がいのある方を対象に不安の解消やスキルアップのための研修会を開催しました

コープこうべで働く障がいのある方を対象に、「十人十色」研修を実施しました。「私らしく」働くためのコミュニケーションスキルやマナーを学ぶとともに、他所属の仲間と交流を図りました。

仕事の不安を解消し、今後の仕事に対するモチベーションを高める機会になりました。



研修を通じて業務のスキルアップや交流ができました

障がいのある方の活躍を支援しています

宅配や店舗、本部などで障がいのある方や働きづらさを抱える方の活躍の場が広がっています。コープ西神南や芦屋市保健福祉センター内で就労体験の場として「めーむひろば」を活用するなど、誰もが働きやすい社会・職場づくりに努めています。



「めーむひろば」を運営する福祉作業所の利用者の皆さん(コープ西神南)

誰もが安心して買い物ができるように

コープこうべの店舗では2020年から、聴覚に障がいのある方が買い物に困らないよう、指さしボードを使って会話をする「コミュニケーション支援ボード」をレジに設置しています。

宝塚ろうあ協会や店舗職員の意見をもとに、サービスコーナーで使用する支援ボードを新たに作成し、全店舗で運用を開始しました。誰もが安心して買い物ができる店舗の環境づくりをすすめています。



サービスコーナーでボードを活用し対応する職員(コープ六甲)

「つながるマルシェ」を開催しました

コロナ禍で商品の販売機会が減った福祉作業所に、店舗のスペースを提供して販売会を行う「つながるマルシェ」が定着しています。

現在、41店舗に広がりました。商品の販売を通じて、心身に障がいのある方たちの地域との交流や、やりがいにつながっています。



手作りの商品を購入する組合員(コープデイズ豊岡)

子会社「株式会社コープエコファーム」を設立しました

7月、三木市にある(有)みずほ協同農園の株式を全て買い取り、11社目の子会社「(株)コープエコファーム」を設立しました。フードプラン野菜の産地として、これまでと同じく資源循環型の野菜作りに取り組んでいきます。

また農業を志す人の育成にも力を入れていくほか、多くの組合員や地域の皆さんが集い、楽しめる場にしていきます。



(株)コープエコファームの設立記念式典(右上も)



さつまいもの収穫を楽しむ組合員

「環境事務次官賞」を受賞しました

消費者庁・環境省が主催する令和5年度食品ロス削減推進表彰において「環境事務次官賞」を受賞しました。

家庭で使いきれない食品を必要としている方にお渡しする「フードドライブ」や、消費期限・賞味期限の近い商品から順に購入する「てまえどり」など、これまで組合員の皆さんと取り組んできた食品ロス削減に関するさまざまな取り組みが評価されました。



「てまえどり」のきっかけとなった食品ロス削減活動を行う第1地区「e買うプロジェクト」の皆さん

「フードドライブ」を実施し食品を必要としている方に届けました

家庭の余剰食品を宅配や店舗などで受け付け、フードバンクなどに寄贈する取り組み「フードドライブ」を各地区で実施しています。コープミニを除く全ての店舗で常時受け付け(※コープミニルミナス箕面は実施)をしており、宅配を含めて年2回の集中受け付けキャンペーンも実施。2023年度は約55tの食品が集まりました。寄せられた食品は各地区本部などを経由して、子ども食堂や食支援を行う団体に寄贈しています。



家庭で余った食品を宅配の地域担当に渡す組合員

「地域つながるフォーラム」を開催しました

多様な個人・団体のつながりから社会のあり方を考えるイベント「地域つながるフォーラム」を9月に開催し、171人が参加しました。

俳優のサヘル・ローズさんが戦争孤児になった経験や来日後に助けてくれた人への思いなどについて講演。

またサヘル・ローズさんを囲んでパネルディスカッションも実施。改めて人や社会とのつながりを考えるきっかけとなりました。



サヘル・ローズさん(左から2番目)も参加したパネルディスカッション

コープの森・社家郷山の取り組みが林野庁長官賞を受賞しました

コープこうべが取り組んでいる「コープの森・社家郷山」(西宮市)の活動が、国土緑化推進機構主催の令和5年度全国育樹活動コンクールで「林野庁長官賞」を受賞しました。兵庫県、西宮市、兵庫県緑化推進協会とコープこうべの4者は2008年、「企業の森づくり活動への取り組みに関する協定」を締結。これをもとに、兵庫県「企業の森づくり制度」の第1号としてコープの森・社家郷山の整備を開始。15年間にわたる市民参加型の育樹活動が評価されました。



森を守るボランティア活動に関わる組合員・職員

「ひょうご地魚推進プロジェクト(とれぴち)」は10周年を迎えました

「とれぴち」は兵庫県漁業協同組合連合会と連携(兵庫県が後援)し、店舗や宅配での商品普及活動や学習会などを通じて兵庫県産の魚のおいしさや食べ方を伝え、食文化の継承や豊かな海づくりをめざす取り組みです。10周年を機に、各地でイベントやキャンペーンを実施。今後も地元の魚をおいしく食べる方法や地産地消の大切さを伝え、漁業や生産者、環境を守ることにつながっていきます。



地元の魚を使った調理方法を学ぶ組合員(協同購入センター丹波)

広報力を高めていくよう取り組みました

広報力向上をめざし、動画やSNSを活用したコミュニケーションの強化に取り組みしました。広報紙の企画と連動し、7月に設立した(株)コープエコファームの魅力を伝える動画を職員が制作。10月には育児中の職員がワークショップを行い、育児に便利でおいしい商品をSNSで投稿しました。2024年2月には「コープ商品CMコンテスト」を開催。それぞれの作品はSNSで発信、店舗に掲示するなど、広報強化に取り組んでいます。



エコファームの魅力を伝える動画を撮影する職員

使用済みつめ替えパックの リサイクルを啓発しました

コープこうべを含む18の民間企業と神戸市は、洗剤やシャンプーなどのつめ替えパックを再びつめ替えパックにリサイクルする「水平リサイクル」をめざす「神戸プラスチックネクスト」に取り組んでいます。その一環として、2024年2月に「神戸プラスチックネクスト in コープこうべ」のイベントを開催しました。約300人が参加し、海洋ごみ問題を考え、プラスチックの分別を体験するなど、楽しみながら学びました。



つめ替えパックを持参し、回収BOXに投入(コープデイズ神戸北町)

「消滅型生ゴミ処理機」を 店舗に設置しました

店舗での新たな食品廃棄物削減の取り組みとして、「消滅型生ゴミ処理機」をコープデイズ豊岡に設置しました。

店舗から出る生ゴミのおよそ8割が処理可能で、微生物の力で水と空気に分解します。食品廃棄物の削減だけでなく、廃棄物の収集運搬および焼却処理時に発生するCO₂の削減にもつながっていきます。



処理機に野菜くずなどを投入する職員(コープデイズ豊岡)

エコファームの食品リサイクルの 取り組みを強化しました

エコファームでは、店舗から野菜くずなどの生ごみを集めて作ったたい肥で野菜を育て、再び店舗や宅配で供給する食品リサイクルループに取り組んできました。

2024年3月、食品リサイクルを更に推進するため、老朽化していた「コープ土づくりセンター」の稼働を終了し、「大栄環境(株)」にたい肥化業務を委託。これにより回収対象店舗を49店舗から59店舗に拡大し、更なる食品廃棄物の削減をすすめています。

■エコファームの新たな食品リサイクルループ図



環境チャレンジ目標 エコチャレ2030

目標年度：2030年度

2030年に向けた環境チャレンジ目標を
2018年度に策定し、取り組みを推進しています。

- チャレンジ1** 事業活動における
CO₂排出量を半減！
2050年度には、排出量
実質ゼロをめざす！
- チャレンジ2** 事業活動における
食品廃棄物を半減！
- チャレンジ3** 事業活動における
プラスチック使用量を
25%削減！
- チャレンジ4** 環境に配慮した
エシカルな商品やサービスの
開発・供給推進！
- チャレンジ5** 組合員とともに
エシカル消費を拡大！



はかるたいせつPROJECT

～「健康でいきいきとした毎日」はみんなの想い～

食の安全や健康づくりに取り組んでいます

「はかるたいせつプロジェクト」は、商品検査センター開設50周年の2017年にスタート。

商品はもちろん、一人ひとりの食習慣やより良い体づくりのために「はかる(計る、測る、量る)」ことを大切に考えた健康づくりの取り組みです。



はかるたいせつプロジェクト

検索

たべるをはかる

東京大学の佐々木敏先生
考案の食習慣を調査する
BDHQを活用した学習
会を開催。健康づくりの
きっかけとなっています。



食と健康をテーマにした学習会

10月の「商品検査の日のつどい」では、ラジオ関西のスタジオからオンラインでゲノム編集食品について配信しました。また、ラジオ関西の番組内でコープこうべの情報をお知らせするコーナー「コープ・スコープ!」の毎月第3・第4火曜日は、食の安全について伝えています。



カラダをはかる

感染症予防や食中毒予防の基本は手洗い。正しい手洗い方法の普及活動を行っています。



商品検査センターで
手洗いの実習▶

加齢により心身の活力が低下した状態「フレイル」。兵庫県と「フレイル予防に関するアンケート」を実施しました。心身の状態を知ってもらい予防法を伝えています。



オーラルフレイルについての学習会

はかるをひろめる

店舗の共済相談会で、健康測定を実施。健康への関心を高めてもらうとともに、体の状態やライフステージに合わせた保障の提案も行っています。



ひょうごまるごと健康チャレンジ

2018年から兵庫県生活協同組合連合会、兵庫県内の医療生協と共に、「ひょうごまるごと健康チャレンジ」を実施。自身が選んだ健康づくりのプログラムを継続できるようサポートしました。



商品検査センターは2023年度、4203件の商品検査及び3120件のお申し出調査を行いました。詳細は広報誌『Hakaru(はかる)』をご覧ください。



持続可能な経営基盤の確立に向けた 構造



宅配事業の基盤整備

全ての地域・世代で利用しやすい「週一宅配」の構築と
安定した事業収益の確保をすすめています

組合員のニーズにより幅広く応えられるよう、
要冷商品の品ぞろえを拡充しました

- ・「めーむ食品編」を4ページ増やし、野菜・果物・デザート・菓子パンなどの品ぞろえを充実させました。



夕食サポート「まいくる」の
配達業務の変革をすすめています

- ・夕食サポート「まいくる」の専任担当以外に地域担当が夕食サポート「まいくる」をお届けする実験を開始しています。

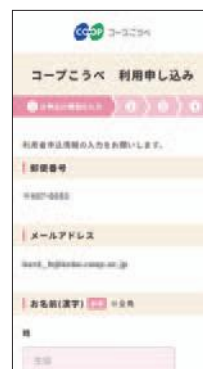


安定した配送体制の確立に向け、大阪北地区の
訪問エリア再編に取り組んでいます

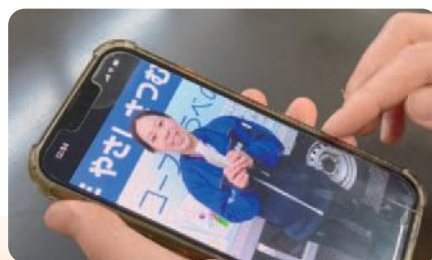
- ・協同購入センター豊中の拡張工事を実施。今後は協同購入センター箕面の建て替え工事に着手するなど、安定した配送体制の整備をすすめていきます。

宅配デジタル化の導入により
加入・利用のしやすさの
向上に取り組んでいます

- ・インターネットでの利用手続きを簡略化し、加入しやすくしたほか、コープこうべアプリをアップデートし、注文機能や商品情報などの拡充を行いました。



- ・地域担当が携帯する業務用端末で組合員とコミュニケーションがとれる環境整備をすすめています。





店舗事業の構造改革

事業構造改革を推進するとともに、組合員から
信頼・愛着を持ってもらえる店舗づくりをすすめています

店舗の競争力強化に向け、利用拡大に つながる取り組みを継続強化しました

- ・より買いやすく、食卓をイメージしやすいメニュー提案型の売り場づくりに取り組んでいます。



- ・月替わりでおすすめのコープ商品を紹介する「ツキ推し!」の取り組みを実施しています。

レジ及び サービスコーナー業務の 効率化をすすめています

- ・セミセルフレジの導入店舗を増やし、シーア・コープ西宮東・コープ西神南では、現金を扱わない「カード専用レジ」を導入しました。



「2023年度営業終了候補店」について、 今後の方向性を決定しました

- ・「2023年度営業終了候補店」に選定した7店舗の利用組合員に、店舗の経営状況をお知らせし、利用のお願いをするとともに、収支改善に取り組みました。多数のご利用・ご協力があり、3店舗（コープミニ猪名川南、コープミニ大谷、コープミニ月が丘）は営業を継続することが決まりました。



- ・2024年度はコープ箕面中央、コープ長田、コープ加西の3店舗を営業終了候補店とし、組合員と一緒に業績改善に向けた取り組みをすすめています。



8つの地区について

コープこうべでは、活動エリアを8つに区分し、エリアごとに地区本部を設置しています。各地区本部では、地域のニーズをきめ細かく把握して活動・事業を推進し、行政や地域団体との連携・協力を強めています。



生産者の声から学ぶ
上富田みかん産地見学会

地区ごとに
多彩な取り組みを
しているよ!



「みんなの牧♥里
プロジェクト」の収穫体験

大阪北地区

第1地区

第2地区

第3地区

第5地区

第6地区

第7地区

第4地区



大学生と食や
環境を学ぶイベント



食文化を学ぶ
「とれぴちフェスタ」



地域連携をめざした
防災イベント



フードライブの
譲渡会&交流会



平和を見つめなおす
戦跡ウォーク

ウクライナ
避難者との交流会

地区別 活動エリア

大阪北地区	大阪市(西淀川区、東淀川区、淀川区)、 豊中市、池田市、吹田市、高槻市、 茨木市、箕面市、摂津市、島本町、 豊能町、能勢町
第1地区	尼崎市、伊丹市、宝塚市、川西市、 猪名川町
第2地区	西宮市、芦屋市
第3地区	神戸市(東灘区、灘区、兵庫区、長田区、 須磨区、中央区)
第4地区	神戸市(北区)、西脇市、三木市、 小野市、三田市、加西市、丹波篠山市、 丹波市、加東市、多可町
第5地区	神戸市(垂水区、西区)
第6地区	明石市、洲本市、加古川市、高砂市、 南あわじ市、淡路市、稲美町、播磨町
第7地区	姫路市、相生市、豊岡市、赤穂市、 養父市、朝来市、宍粟市、たつの市、 市川町、福崎町、神河町、太子町、 上郡町、佐用町、香美町、新温泉町、 京都府京丹後市

コープこうべ概要

(2024年3月31日現在)

- 名称 生活協同組合コープこうべ
- 設立 1921年(大正10年)
- 所在地 〒658-8555
兵庫県神戸市東灘区住吉本町
1丁目3番19号
- 出資金 364.6億円
- 供給高 2457.4億円
- 組合員数 172万517人
- 世帯加入率 48.4%
※活動区域の世帯数に占める組合員数の割合
- 活動区域 兵庫県全域・京都府京丹後市、
大阪府北部(豊中市、箕面市、
池田市、吹田市、茨木市、高槻市、
摂津市、能勢町、豊能町、島本町、
大阪市淀川3区)
- 事業内容 宅配や店舗で食品を中心とした
商品の供給事業を実施。くらしに
関するさまざまな領域の事業活
動を展開し、組合員や地域の皆さ
んと一緒により良いくらしや社会
の実現に取り組む
- 職員数 9272人
- 事業所 住吉事務所/1カ所
地区本部/8カ所
店舗/135店舗
協同購入センター/22事業所
六甲アイランド食品工場/1カ所

アンケートのお願い

今後の報告書づくりの参考に
させていただきますので、
皆さまのご意見・ご要望を
お寄せください。右上のQRコード®を
読み取って、入力をお願いします。



◀ ホームページ
<https://www.kobe.coop.or.jp>



Instagram ▶
<https://www.instagram.com/coopkobekoho/>



コープこうべグループの紹介



(株)コープムービング

- 貨物運送事業
- 物流センター構内作業
- 地域担当業務
- 折込チラシセット業務
- 福祉用具レンタル業務など



(株)コープフーズ

- すし、惣菜類、弁当の製造販売
- 「まいくる」・中学校給食などの給食事業



(株)協同食品センター

- 農産品・水産品・畜産品などの加工、盛り付け、包装など



(株)コープエイシス

- 各種保険
- 収納代行



阪神友愛食品(株)

- リサイクルに関する業務
- 食品の包装業務など
- 知的障がい者の職業訓練



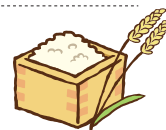
コープ住宅(株)

- 増改築リフォームの企画・設計・施工・アフター管理など



(株)コープライスセンター

- 精米業など



(株)コープ環境サービス

- 施設の清掃・警備・保守管理
- ホームサービス事業
- 再生可能エネルギーを利用した発電事業など
- 店舗検収業務



(株)コープベーカリー

- インストアベーカリー「小麦の森」の運営事業
- 「コープこうべ六甲アイランド食品工場」の製造部門、管理部門受託事業



(株)ゆうあいサポート

- リサイクルに関する業務
- 施設内の清掃業務



(株)コープエコファーム

- 農産物生産販売事業
- 貸農園事業
- 農業体験学習事業
- 太陽光発電事業



コープこうべ コミュニケーションレポート2024

編集・発行/生活協同組合コープこうべ 広報室

2024年6月発行